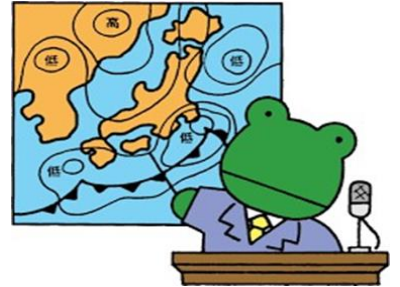


今回は【現代文の勉強法】を紹介します。

はじめに

「現代文は、現代の日本語なので何とかなる」と思い、勉強を後回しにする人がいます。しかし、何とかなるレベルならば入試科目として課す必要はないはずです。勉強しないと何とかならないのが「現代文」なのです。また、入試科目として課すからには、答えが一つに絞られます。「人間の心情などは複雑なのだから答えは複数あっても間違いではない」と考えられがちですが、必ず一つになるように問題は作られます。その一つの答えに到達する論理力、洞察力が問われるのです。現代文は「君たちがどう思うか」ではなく、「書いてあることを正確に読み取れるか」を問う問題なのです。



1 学習方法

3年の夏休みで現代文の力を伸ばすには、現代文読解のための原則や論理構造の理解を重視しながら問題を読み解いていくことが重要です。そこで、問題に取り組むに当たって大切なことを以下に挙げておきます。

- (1) 問題を解く時には、ただ文章を読むのではなく、書き込みながら読むことが必要です。順接、逆接、対比、言い換えなどそれぞれに印や傍線をつけながら読むことによって論理構造を可視化するのがポイントです。
- (2) 自己採点をするとき、正解か、不正解かだけに注目するのではなく、解説を読んでなぜその解答になるのか、なぜ不正解になるのかを明確にしましょう。
- (3) 選択肢のある問題については、正解だけを求めるのではなく、不正解の選択肢のどの部分が間違っているのかを確認しましょう。

2 現代文の問題を解くに当たって

(1) 現代文は時間との戦い

模試等の経験からも分かるように現代文は時間との戦いでもあります。いかに早く読み解いていくかが鍵です。その時よく迷うのが、全体を読んでから解くか、読みながら解くかです。どちらにも、それぞれメリット・デメリットがありますが、近年増加している全体的な本文の内容合致や文章の特徴を問われる問題に対応するためにも、一度大まかに全体を読んで話題や筆者の主張を掴んでから設問の箇所を読み解くことをお勧めします。傍線部の内容が後述部分で具体的に言い換えられている場合なども気づきやすいはずです。但し、漢字は読みながら解くのが基本です。

(2) 現代文読解のための大原則

- 原則① すべての根拠は文中にある。
- 原則② 筆者の主張は形を変えて繰り返す。
- 原則③ 傍線・空所はその前後を注意して読む。

(3) 論理構造を理解するための書き込みポイント

書き込みながら読み、論理構造を可視化することによって何度も読み返す必要がなくなります。どのようなマークや記号を付けるかは、自分でわかりやすいものを使えばよいです。

以下にポイント(①～⑧)を記しておきます。

- ① 前文を受け、同じ価値観で次へつながる接続語(順接・並列・添加)
「だから」「したがって」「それゆえ」「また」「しかも」「さらに」「そのうえ」など
- ② 前文とは反対の内容、あるいは価値観が逆転する接続語(逆接) ★直後に注目!
「しかし」「だが」「けれども」など
- ③ 重要な内容を要約・言い換えている接続語 ★抽象と具体の言い換えに注意!
「つまり」「すなわち」「言い換えれば」「要するに」「いわば」など
- ④ 二つの重要な内容の対比関係を表す接続語にマークをつける。
「それに対して」「一方で」「他方で」など ★二項対立に注目!
- ⑤ 重要構文を示す接続語や文末表現にマークをつける。
A「ではなく構文」＝「ではなく」「だけでなく」「ではない」など ★直後に注意!
B「Xとは～構文」＝「とは～」「というのは～」「こそ～」など ★筆者なりの定義を確認!
C「比較」＝「むしろ」「～より」など ★その後に筆者の主張!
D「譲歩」＝「たしかに」「もちろん」「なるほど」「むろん」など
E「例示」＝「たとえば」など
- ⑥ 指示語にマークをつけ、何を受けているかを捉える。(特に傍線部の前後の指示語は大切)
「これ」「それ」「この」「その」「このような」「そのような」「こうした」「そうした」など
- ⑦ 筆者の主張、あるいは主張と反対の一般論が短くまとめられた語句(10字以内)＝キーワード!
- ⑧ 筆者の主張、あるいは主張と反対の一般論(10字以上)＝キーセンテンス
※上記⑦・⑧で筆者の主張にはプラスのマーク、筆者の主張と反対の一般論にはマイナスのマークをつけるなど工夫してみよう!



3 **その他の読解に必要な知識**

(1) 語彙力

- ・漢字は、読み・書き・意味をワンセットで覚え、抽象概念を表す語句、哲学用語、カタカナ語、近代特有の語句、慣用句など現代文重要語の意味を正確に理解すること。(『上級入試漢字』『現代文単語』を活用するとよい)
- ・語彙力(ことばの力)は読解力の基盤であり、国語のみならず全教科で読解力が問われていることを忘れてはならない。それは、単に入試だけの問題ではなく、大学入学後の学問を支えるのが「ことばの力」を土台とした読解力だということを意味しているのである。ゆめゆめ侮ることなかれ。

(2) 時代背景と文学史

- ・明治・大正・昭和がどのような時代であったのか、人々の価値観はどうであったのかを知る。
- ・江戸時代の戯作文学 → 明治初期(写実主義・擬古典主義) → 明治中期(浪漫主義) → 明治末～大正(自然主義・反自然主義) → 昭和(プロレタリア文学・芸術派) → 戦争下各時期の文学の傾向や代表的な作家と作品を覚える。

(3) その他

- ・便覧p292～301「今読んでおきたい現代の評論家」「評論50」を読み、入試頻出評論の傾向を理解しておく。

4 おわりに

現代文の問題には必ず出題者の意図があります。ですから、それぞれの設問で作成者が何を答えとして要求しているのかをしっかりと読み取ることも心がけてください。また、設問に設定された条件は絶対です。必ず条件に合うように答えましょう。そのためには、まず、設問を読み解くことが大切です。記述問題では文末表現(「～こと。」「～から。」など)にも注意して解答するようにしてください。

どうしても読むスピードの速さが求められるので、日頃から教科書の文章や新聞の社説などを自力で読むように心がけ、速読力を鍛えましょう。読み慣れることがスピードアップにつながります。

《オープンキャンパスについて》

今年度は、オンラインオープンキャンパスに加えて、『対面式オープンキャンパス(事前予約のところが多い)』を実施予定の大学が増えています。定員になり次第予約終了となるので、大学公式HP等で調べて申し込みましょう。